

伊原間中学校地元水産物 PR ワークショップについて

(報告)

石垣地区コーディネーター

東里 香織

対象：1年生 人数：14人 日時：平成28年11月30日（水） 場所：石垣市立伊原間中学校 図書室 担当：石垣地区コーディネーター東里香織

<目的>

●伊原間中学校の生徒は北部4校合同5・6年生で2回のジョブシャドウイング実施を経験している。そのため、今回のジョブシャドウイングで3回目の実施となり、実施前に行う事前学習も同様3回目の実施になる。そこで、小学生で行った仕事とは何か考える時間とコミュニケーションワークで行ったゲームの時間を、講師を招いてグループで八重山地方の地元水産物のPRをするPOP広告を作成するワークショップを行うことにした。優秀な作品にはスーパーに掲示する条件を付けることでより実践的な学習となり、かつ競争が生まれ、レベルアップした事前学習を行うことで仕事を身近に感じ将来を考えるきっかけを作る。また、若者層の水産物消費が低下していることから、若者層が地元水産物に眼を向けるきっかけにすること。さらに同世代に向けたPRとすることで、若者層の視点と感性を引き出すことを目的にした。

<講師>

◇氏名：渡邊義弘

◇役職：石垣市地域おこし協力隊兼東京大学客員研究員

◇選定理由

地域おこし協力隊として産学官連携に積極的だったことや、講話・講師の経験が豊富のため充実した事前学習が期待できたため。

<内容>

- ① 講師によるワークショップの解説
- ② 4グループによるPOP作り
- ③ グループによる発表
- ④ 生徒・講師による選定

<当日の様子>

講師の専門である情報発信の仕事について話した後、ワークショップの説明を行った。生徒はワークショップを開始すると意欲的に話し合い、本で調べるなど作業に取り掛かった。完成まではいかなかったがグループごとにキャッチコピーやPOPのデザイン案を決めることができた。最後にグループごとに発表し相互評価の投票制と講師からの加点によって優秀作品を決めた。

<写真資料>



【講師による説明】



【発表】

<所感>

緊張した様子はなく、講師の説明を理解していた。

<成果と課題>

○成果

事前にテーマを伝えていたことや、グループ分けを行ったためスムーズに作業に取り掛かることができた。ワークショップの結果、地元水産物をPRするPOP広告を作製し、コンペで1点を選出した。

また、選出したPOP広告を地元スーパーである、サンエー石垣シティの鮮魚コーナーにて1月4日まで展示した。

○課題

時間内に完成するようにいくつか事前準備が必要だった。

地元水産物PR法学ぶ

伊原間中 販売促進用の広告作成



販促用のPOP広告の作成に取り組む伊原間中学校の1年生ら＝同校図書室

石垣市グッジョブ連携協議会は11月30日午後、伊原間中学校1年生14人を対象に同校で「地元水産物PRワークショップ」を開いた。地元の海産物に興味を持ち中学生の視点で水産物をPRし、実際に使ってもらうことが目的。

地域おこし協力隊の渡邊義弘さん(東京大学客員研究員)が講師を務め、生徒らは渡邊さんのアドバイスを受けながら各班ごとに「消費者が魚を買いたくなる」販売促進用の「POP(広告)」を作成。その中から生徒らの意見と渡邊さんとの評価を加味して1点を選んだ。同協議会の地区コーディネーターを務める東里香織さんは「伊原間中の1年生は北部4校合同で小学5年と6年のときにグッジョブウィングを経験している。その経験を踏まえ(3回目となる)今回はレベルを上げた内容」と話した。

選ばれた作品は11月30日～2017年1月6日までサンエー石垣シティの鮮魚コーナーで使用される。

サンエー石垣シティ 鮮魚コーナー 掲示期間：平成28年12月1日～1月6日

